事業の実施内容及び実績に関する報告書
（東日本大震災に伴う被災地災害ボランティアセンター運営支援事業）

1　地域の課題

東京都社会福祉協議会では、東京都と協働しながら被災地の災害ボランティアセンターに長期・短期のコーディネーターを派遣することで、災害ボランティアセンターの運営が円滑に行われ、全国からのボランティアの活動が促進することを目的に、平成23年度、岩手県陸前高田市及び宮城県気仙沼市の両社会福祉協議会が設置、運営する災害ボランティアセンターに長期のコーディネーター派遣を行い、短期のコーディネーターを派遣することで、その他の地域にも支援の取組みを行ってきた。

しかし、その中でも陸前高田市は津波等による被害が甚大で、災害ボランティアセンターの設置が他地区よりも遅れたこと、災害ボランティアセンターを運営する社会福祉協議会の体制が依然として整備できない状況にあること、ボランティアニーズが他の地域に比べても多いため、発災１年を迎えた時期に至っても、多くのボランティアの受入れを必要とする状況があり、また、それに応えて多くのボランティアが陸前高田市に集まってきている状況があった。

こうした中で、発災１年を過ぎ、陸前高田市災害ボランティアセンターの運営を支えてきたいくつかのNPO法人等が撤退を決め、平成24年４月以降の災害ボランティアセンターの円滑な運営が危ぶまれる状況にあった。

2　モデル事業の概要

平成24年４月から９月末まで、陸前高田市社会福祉協議会からの要請に基づき、長期・短期のボランティアコーディネーターの派遣を継続することとした。長期のコーディネーターは９月末まで常時２名体制とし、短期のコーディネーターは、ゴールデンウィークや夏季休暇のボランティアが多く集まる繁忙期に派遣することとした。

3　マルチステークホルダーの概要（役割分担等）

（１）社会福祉法人　東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）

被災地の災害ボランティアセンターの状況、ニーズ把握を行い、コーディネーターの派遣をとおして必要な支援を行うとともに、短期のコーディネーター派遣先の確保などを行う。

（２）東京都生活文化局

東京都社会福祉協議会が行う派遣の取組みを支援し、必要に応じ、現地自治体等との調整を行う。

4　実施事業の詳細な内容

別添資料参照

5　事業実施上の課題

（１）長期派遣においては、事業終了後、陸前高田市社会福祉協議会が自力で災害ボランティアセ

ンターを運営し、地域住民のボランティア参加を促進できるような支援を行うことが求められていた。このため、東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）の山崎所長が定期的に支援に入るなど、スタッフのスキルアップを念頭に置いた支援活動を行う必要があった。

（２）一方、短期派遣は繁忙期の派遣を予定したが、陸前高田市社会福祉協議会が、その災害ボランティアセンターの体制も念頭に、一日のボランティア受入れ数を制限したため、次期に関わらず行ってした運営体制で対応できることになったことから、派遣が不要となった。

６　モデルとして他の NPO・行政等に紹介する仕組み

○　今後の首都圏での災害に備え、コーディネーターを長期、短期で派遣することにより、東京での人材確保、人材育成を自治体が、災害ボランティアセンターを運営することが想定される民間団体を支援していくというモデル事業として、今後も同様の取組みを検討することができる。

７　平成 25 年度以降の予定

○　平成 24 年度ですでに事業終了

（別添）

「東日本大震災に伴う

被災地災害ボランティアセンター運営支援事業」報告

Ⅰ　ボランティアコーディネーター派遣の実施内容および実績について

Ⅱ　専門家による災害ボランティアセンターの職員に対するノウハウの提供

Ⅰ　ボランティアコーディネーター派遣

実施内容および実績について

1　実施概要

(1) 実施概要

①目　　的：東日本大震災に伴う被災地災害ボランティアセンター運営支援のため、
　　ボランティアコーディネーターを派遣
②期　　間：平成24年4月1日～平成24年9月30日
③派 遣 先：陸前高田市社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンター
④形　　態：常時2名常駐 ※繁忙期(5,7,8月の内計10週)は、1名増員
⑤実施体制:実施主体-東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター
・同センター所長　山崎（現地ノウハウ提供研修講師、事業全体のスーパーバイズ）
・同センター副所長　竹内(業務履行責任者、現地との事業調整)
・現地派遣常駐職員4名(陸前高田市災害ボランティアセンター運営状況の変化に伴い
7月以降2名体制へ変更)、東京勤務職員 1 名(運営事務担当)
・災害担当職員3名(サポート役)

(2)陸前高田市災害ボランティアセンターについて

陸高災害市災害ボランティアセンターは、「つないで陸高なじょにかすっぺ」の精神の基、「人と人をつなげて陸前高田をなんとかする」という目標を掲げ、被災地・被災者支援活動を実施している。陸前高田市は、他の被災地と比べても甚大な被害を受けており、平成24年9月以降も災害ボランティアセンターの看板を掲げて、ボランティアニーズの受付と新規ニーズの掘り起しを実施している。また、陸前高田市を訪れるボランティアを、自分たちの災害VCの仲間一人、「現場活動班」と捉え、県内外からの災害ボランティアの受け入れを行っている。

東京都及び本会では、平成23年度5月以降、陸前高田市災害ボランティアセンターの運営を支援するためボランティアコーディネーターを派遣してきた。

2 ボランティアコーディネーター派遣実績

(1)派遣実績　　のべ277人/日

	陸前高田市災害ボランティアセンター
4月	65
5月	54
6月	38
7月	40
8月	40
9月	40
総計	277

※繁忙期の1名増員については、4月以降の陸前高田市ボランティアセンターのボランティア受け入れ体制及び災害ボランティアセンターのスタッフ体制を考慮の上派遣を見送った。

(2)陸前高田市災害ボランティアセンター運営体制

平成23年度3月末に陸前高田市社会福祉協議会職員の人事異動があり、ボランティアセンターの主要職員数名が移動になり、新たにボランティアセンターに配属となった職員を主とする職員体制となった。また、発災以後、ボランティアセンター運営支援のためのスタッフ派遣を実施してきた外部支援団体には支援を退く(NICE、板橋災害支援ネットワークなど)団体、または、一旦引き上げて現地の経過を見守る団体の動きがあった。

上述の理由により、平成24年4月以降、陸前高田市災害ボランティアセンターのスタッフ体制(それまでの体制から、スタッフ数は半減)が再編成され、外部支援団体としては、難民支援協会と、本事業での現地派遣職員常駐2名の、計10～13名前後のスタッフ体制へ移行した。

それに伴い、災害ボランティアセンターの1日当たりの受入ボランティア数に制限を設け、バス10台、ボランティアは500人まで(事前登録ボランティアの総数が500人に満たなくても、バスは10台を超えて受け入れない)とし、月曜と火曜の週休2日体制となった。

(3)実施内容

5月に再度体制変更があり、一旦退いていた外部支援団体のスタッフも数人出入りが始まり、これまで以上に地元職員を中心とした体制へ移行していった。また、1日のボランティア受け入れに制限を設けたことに加えて、4月以降のボランティア数が当初の予定より少ないことを受けて、本事業による現地派遣職員の派遣について、陸前高田市社会福祉協議会職員と数回に渡り調整を図った。

結果、現地に派遣していた職員本人(根本、小松)の意思もあり、2名の派遣を6月までとした。なお、この2名枠には新たな人員確保は行わず、これまで派遣してきた2名の職員(秦野、桑久保)の勤務日数を、16日から20日に増やし、常駐1名体制で9月末まで実施することとした。

また、災害ボランティアセンターの状況は発災時の緊急支援を必要とした時期と違い、1週間単位の応援ス

タッフ(活動5日＋移動2日)では、個別業務を指示する職員の負担になり兼ねないという理由等から、繁忙期10週1名増員のボランティアコーディネーターの派遣は見送った。

(4)事業の連絡調整及びフォローアップ

○全体ミーディング4月2日(月曜日) 18:30～21:00
　現地派遣職員及び本会職員の合同ミーティングを東京にて実施し、事業の方向等を確認

○現地派遣職員は、毎日の活動報告をネットワーク上の情報共有掲示板に報告

○毎月現地派遣職員が休暇で東京帰京時に、各自から現地の状況ヒアリングを行い動向把握

○東京都社会福祉協議会職員が事業調整及び研修実施のため、現地を計6回訪問し、陸前高田市社協職員及び現地派遣職員から運営状況ヒアリングを実施

○平成24年度災害ボランティアコーディネーター養成講座　S級コース第1期　現地派遣職員秦野・桑久保の2名が、受講及び事例発表

6月29日(金)	14:30-17:00	「災害と被災地・被災地支援を考える」
7月9日(月)	10:00-12:30	「なぜ社協やボランティアセンターが被災地支援に取り組むのか」
7月9日(月)	14:00-16:30	「災害ボランティアセンターの機能と役割」にて、陸前高田市災害ボランティアセンター事例発表 現地派遣職員　秦野/桑久保

(5)派遣成果

本事業による現地派遣職員は、外部支援者としての立場を常に意識しながら、陸前高田市ボランティアセンター職員と共に、陸前高田市災害ボランティアセンターのスタッフの一員として、業務にあたった。マッチング・ニーズ班、総務・オリエンテーション班を主に担当しながら、人員不足の他部署を補充しつつ、流動的に業務を遂行し、陸前高田市災害ボランティアセンターの運営を支援した。

現地派遣職員の秦野、桑久保は、災害ボランティアセンター敷地内外の環境整備やトイレ清掃や物品整理を率先して行うなど、自身も被災者でありながら支援者の立場にいる陸前高田市社会福祉協議会職員を支えることを第一に、外部支援者として、常にセンター運営が円滑に進むよう心を配った。

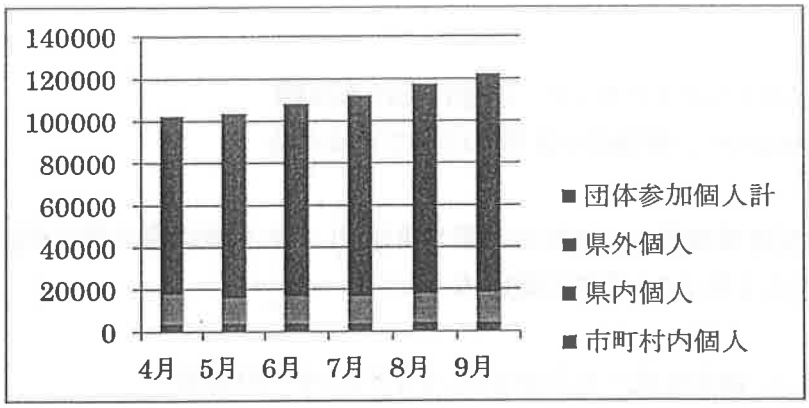
そうした業務姿勢については、陸前高田市社会福祉協議会の複数の職員から、評価の報告を繰り返し受けており、本事業により派遣したボランティアコーディネーターが、陸前高田市災害ボランティアセンターの運営において貢献し、一スタッフとして役割を果たした。

3　陸前高田市災害ボランティアセンター活動報告

～現地派遣職員からの毎日の業務報告より～

(1) 陸前高田市災害ボランティアセンター設置以降のボランティア総数の推移

（図は、H24年4月からの推移）



※平成24年度9月末に陸前高田市で活動したボランティア総数は、12万人を超えた。

(2)経過

市街地全体が壊滅的な被害を受けた陸前高田市では、平成24年9月末現在も、災害ボランティアニーズが未だ残った状況にあり、また、被災された方の心情は、より厳しい状態にある。

昨年の冬は例年にない悪天候で、地面が凍って瓦礫撤去などの作業が出来ず、道路も路面凍結による事故の危険などの理由で、ボランティア活動は事実上停滞状態になった。

春先から4月以降、被災者からのボランティア依頼の増加とともに、他の被災地で次々に災害ボランティアセンターが閉所されていった状況もあり、多くの災害ボランティア希望者が陸前高田に集まるのではないかという予測もなされた。

実際には、4月以降も寒さが和らがず雷雨強風による天候に左右されて活動が中止になる日が多くあったこともあり、ボランティアは増加したものの激増するという状況にはならなかった。ゴールデンウィーク期間中も、予想したほどのボランティア数ではなかったが、全体としては、リピーターの個人や企業ボランティアを中心に、震災後1年経て初めて被災地でボランティアをする人若葉マークのボランティアも増えた結果、毎月 1,000 人を超える災害ボランティアが活動した。

7月末から9月末にかけては、夏休みを利用しての学校(中学、高校、大学)からの団体ボランティア増加を受けてのボランティア数は毎月増加した。一方で、課外活動、引率の教師が授業感覚で活動する姿が多く見受けられ、災害ボランティアセンターとしては、被災地の現状や被災された方の心情を察する行動を呼びかけ、意識付けるオリエンテーションの工夫に苦心した。

また、ボランティア車両に対する災害派遣等従事車両従事車両の高速道路無料化措置について、被災地の復興状況との兼ね合いで措置の延長が度々更新されたが、無料化措置の延長は、毎回措置期限が切れ

る間際での発表となったため、無料化措置の延長発表がされた月末には、ツアー関連会社や企業、個人ボランティアからの翌月のボランティア申し込みと問い合わせが集中し、毎回職員が対応に追われる事態となった。（災害従事車両については、災害ボランティアセンターを通さず直接支援先に向かうボランティアとの間で、対応に苦慮することも多く、4月以降、陸前高田市災害ボランティアセンターでは、「災害派遣等従事車両証明書」の申請に必要な活動確認書の発行については、ボランティアセンターを通してマッチングした人・団体しか発行しないと決めた）

(3)ボランティアコーディネート及び災害ボランティアセンター運営における課題

現地派遣職員からの4月～9月の業務報告から、特徴的な課題を以下に5つあげる

① 複雑化・多様化するニーズへの対応(産業復興への補助金制度や支援ジレンマ(住民の自立等)との関係で、何を災害ボランティアの活動として受けるか判断の難しくなった)

② 新たなボランティアニーズの掘り起しと、被災住民への災害ボランティアセンターの周知

③ ボランティアの減少と、 ボランティア意識(メディアでの被災地情報発信が減少し、被災の記憶の風化と共に、ボランティア活動時に被災地(者)への配慮に欠けるボランティアの行動に繋がらないようにするボランティアの意識づけの工夫が求められた。)

④ ボランティアへの安全意識の徹底(被災地の瓦礫が大幅に片付いたことで、視覚的に受けるインパクトが減少し、緊張が緩んだこともあり装備不足や簡単な怪我が見受けられた)

⑤ 災害ボランティアセンターのスタッフの不足

(4)ボランティアニーズの変化

各月毎の、大まかなボランティアニーズは以下の通り

4月

細かいガレキの撤去、井戸の穴埋り、引越し、花畑再生、ワカメの茎きり、畑作り、草刈り、側溝の泥出し、イカダ作り、家屋の掃除、土留め作り、道の整備、定置網作り、物資仕分　他

5月

細かいガレキ撤去、砂利だし、整地、漁港再生、漁港の側溝泥だし、水路の泥出し、畑作り、他

「畑の側溝の泥だし」
陸前高田市災害ボランティアセンターHP より

6月

細かいガレキ撤去、畑作り、草刈、高田一中のグランド造成、カキ養殖用ロープ切り、側溝の泥出し、花植、草ぬき、定置網作り、農地再生作業、田植え、定置網の作成補助　他

7月

細かいガレキ撤去、畑作り、草取り・草刈り、お寺の階段作成、海岸清掃、竹の伐採、七夕の手伝い、水路の泥出し、養殖に関する活動　他

8月

宅地跡の花壇草とり、細かいガレキの撤去、水路の泥出し・掘り起し、草取り、小屋作り　他

ボランティアが運営参加「8月7日気仙町けんか七夕」
陸前高田市災害ボランティアセンターHP より

9月

草刈り、草取り、水路のドロ出し、細かいガレキの撤去、文化財の洗浄、他

Ⅱ 専門家による災害ボランティアセンターの職員に対するノウハウの提供 実施内容および実績について

1　実施概要

(1)1回目

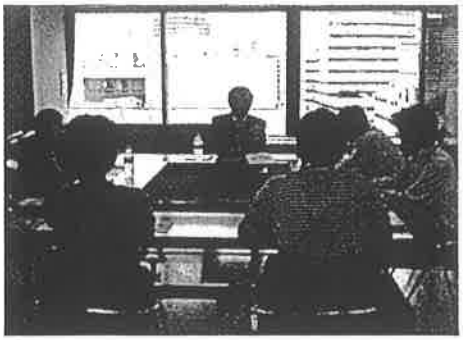
・日　　程:平成24年4月20日
・目　　的:陸前高田市の被災者支援の動向を把握するとともに、相談活動からボランティアニーズを拾い、災害ボランティアセンターへ繋げる働きを期待して、陸前高田市社会福祉協議会の生活支援相談員向けに実施した
・実施場所:陸前高田市社会福祉協議会
・参加人数:約30名、本会職員3名
・実施内容:生活支援相談活動の課題出し、各担当仮設住宅の被災者の状況共有、生活支援相談員のメンタルケアの仕方、災害ボランティアセンターへの繋げ方等
・そ の 他:陸前高田市災害ボランティアセンター所長及び副所長と、情報交換を別途実施

(2)2回目

・日　　程:平成24年8月17日
・目　　的:陸前高田市災害ボランティアセンターの状況を共有し、対応困難なケースについて活動事例や今後の活動の方向について情報を提供する
・実施場所:陸前高田市災害ボランティアセンター
・参加人数:陸前高田市災害ボランティアセンター職員9名、本会職員4名
・実施内容:災害ボランティアセンター運営状況に関する説明を受けたのち、全体で日常課題を共有し、ボランティア対応等について講師よりコメント

※3回目(9月末予定→未実施)については、実施予定日程に陸前高田市社会福祉協議会及川事務局長を東京に招いて、意見交換会を実施する運びとなり、実施を見送った

（3） 陸前高田市社会福祉協議会及川事務局長との意見交換会



・日　　程：平成24年9月27日
・目　　的：陸前高田市社会福祉協議会の担当者との事業調整及び被災地現状に対する報告の講師として、陸前高田市社会福祉協議会及川事務局長を招き、被災地被災者支援に関する意見交換会の機会として実施した
・実施場所：東京都社会福祉協議会
・参加人数：本会ボランティアセンター所長、副所長、災害担当職員4名
及川事務局長
・実施内容：及川事務局長より、被災地の状況や災害ボランティアセンター運営に関する説明を受けたのち、復興計画進行状況、被災者の個人情報の収集、災害ボランティアセンターの立ち上げから運営、組織の中長期事業計画、被災者支援のための事業や資金繰り、などについて情報交換

以上